

2022年4月30日

『みんなのスポーツ』4月号 (No.482) から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の4月号は「スポーツ・イン・ライフとスポーツコミュニティ」の特集号です。

私が今月号で感じたこと・参考になる点、気になったことなど4点記載します。長文のため時間のある時にお読みください。特に4番目の事例は新任推進委員の方に紹介ください。

1. P2, 3 特別企画 R3年度全国スポーツ推進委員研究協議会 (文部科学大臣表彰)

(1) 新宿区 南雲千恵さん(75歳：推進委員歴32年)

「些細なことでも自分の持てる力を出し切りたい」のタイトルとともにその事例が記載されている。広報部員を担当された時に、知恵を出し合い、実際に身体を動かす、スポーツをする、ということにとらわれず、スポーツに関する「本」を紹介することで、魅力を伝えよう！とされ、ラグビーの松尾雄治選手や冒険家の植村直美己さんの本の反響が大きかった例などが紹介されていた。私も毎月本を読んでいるが同じように感じることはある。

(2) 山形県会長 後藤一也さん(64歳：推進委員歴35年)

「今、スポーツ推進委員に求められていること」では、スポーツ実施率向上を目指して、**データを取り、データから見えてくる現状を受け止め、地域スポーツの在り方を見直す**とともにスポーツ実施率の向上につなげていこうとする考え方。全く同感。

2. P8～ スポーツをひらく 埼玉県桶川市 障がい者と健常者の垣根をなくす

2018年の関東スポーツ推進委員研究大会が開催され、初級障がい者スポーツ指導員研修会があり2名が受講。偶然にも桶川市で翌年同研修会が開催されさらに4名が受講。これを**機にだれでもスポーツはできることを学び**、下地作りから地道に進め「シティングリトルバレー」と「ソフトモルック」の2種目に着目して誰もが楽しめるように工夫を加えながらやっている事例他が紹介されている。

3. P12～ 理論1 第2期スポーツ基本計画以後の地域スポーツを考える

筆者の後藤貴浩国士館大学教授は東京に移り住んで7年目である。見知らぬ土地に来て仕事以外で新しく友人を作る・地域活動をするにはおつかしいと考えておられたとの事。しかし、**学校開放利用団体(サッカーサークル)の活動をきっかけに、プライベートを含め様々な人たちと人間関係を築くことができた。この活動を通して学校開放委員会の委員として地域の他の会議にも出るようになり地域のことを知り、住民との関係性や暮らす地域のことを知りことができた事例**が紹介されている。振り返ってみれば林が横須賀に移り住み始めたころも同じようだったなど感じた。

何のためにスポーツをするのかということではなく、スポーツを「する」ために「集

まり」活動を続けていくことで「地域」との接点を持たざるを得なくなかった。

4. P25 不安や疑問にお答えします！！（新任スポーツ推進委員に対して）

新型コロナが流行して早3年、スポーツ推進委員の事業そのものが中止・延期を余儀なくされました。そのため実践を通してのスキルを身に着けたり、地域住民の方とコミュニケーションを図ったりすることができない状況が続いています。そんな新任の方が抱えている「不安」や「疑問」に愛知県刈谷市の会長と副会長が新任の方からの質問に答える形で構成されたコーナー。

例えば、「仕事と家庭とスポーツ推進委員との両立について」は、出られるときは出よう。やっていると仕事のことも忘れ夢中になっており組むことができ、活動が楽しくなる。あまり肩をいれなくて「できることを続けよう」。

その2、「どうすればいい情報が入りますか？」は、スマホから情報を得ています。また、ひらめいたこと、面白いと思ったことを発言するようにしています。

その3、「日々の活動にマニュアルは必要？」、マニュアルは必要だと思いますが、習うより慣れる！ 失敗を恐れずにやってみることが大事だと2人とも言われている。

その4、「アフターコロナのスポーツ活動について」は、刈谷市では屋外は「ノルディック・ウォークステーション」に取り組んでいる。屋内は中止にしている、アフターコロナを見据えて、コロナを「正しく恐れる」ように取り組まなければいけない。参加人数を減らして回数を増やすなど、コロナと共存しながらスポーツを推進していることが必要としている。

⇒林も **アフターコロナを見据えた活動、既存の活動の見直しやスポーツ環境を整えていくことが必要だと考えています。また、コミュニケーションの取り方も考えてみる必要がある**と考えます。

この2年は、コロナ感染の少ない時期に学区を訪問などしていますが、行事ができず同じ学区を訪問することもあります。行事を行っている学区は、「安全・安心」に配慮しながら、工夫や知恵を絞り取り組んでいるところが多くあります。「楽しい行事」ありがたいとの参加者からの声をたくさん伺いました。

今月号は4つの事について記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことでできることから始めて（行動）みませんか？

*本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがあるように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合とこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど感ずると思います。

令和4年度は事務局を含め18冊横須賀市では購読しています。声をかけていただければ書き込みの多い私の冊子ですがお貸しいたします。

以上